

I 第1年次研究の概要

1 主題設定の理由

個性にかかわる内容については、ここ10年余の間に、社会の変化に伴ってその時々々に託したおもいを読み取ることができる。すなわち、昭和53年教育課程審議会答申の中に「個別化」、昭和58年中央教育審議会報告の中に「個性の伸長」、昭和60年臨時教育審議会答申の中に「個性重視の原則」、そして、平成元年学習指導要領の改訂では「個性を生かす教育」としてそれぞれの答申、報告の中に見ることができる。

「個性を生かす」ことが重視される背景として「学習は個において成立する」との教育の原則、「多様な価値観への対応」を求める社会的要請、「新しい学力観」に立った学力の向上、「40人学級編制」に伴う条件の整備等があげられる。

本県における実態調査[※]では、小・中・高校の68.7%の教師は、「個性重視の理念は分かるが学年・学級経営上の迷いがある」としている。

学年・学級は、児童生徒の学習や生活のすべての基盤であり、主体性や社会性の育成の場、個性伸長の場でもある。

これらのことをふまえ、児童生徒一人一人の個性が生きる学年・学級経営の充実策を追究するため、本主題を設定した。

2 研究計画

- 第1年次
 - ・研究構想の樹立、実態調査と分析・考察
- 第2年次（本年度）
 - ・「個を生かす学年・学級経営」充実策の事例収集・開発、「同 アイディア集」発行
 - ・協力校における充実策の実践・事例収集
- 第3年次
 - ・協力校における充実策の実践・事例収集
 - ・「個を生かす学年・学級経営アイディア集 一日編」の発行

3 研究を支える基本的な考え方

※ 平成2年8月 本教育センターによるアンケート調査

(1) 個を生かす学年・学級経営

「個性を生かす」ことは、教育の理念、目的である。すなわち、一人一人の児童生徒をかけがえない存在として認め、プラスの特性であるよさを見だしそれに応じた最適な手だてを工夫して育て伸ばす。そして、他人の個性を認め、自己のよさを生涯をとおして自覚し十分に発揮しながら生活・活動できるようにすることである。

「個を生かす」ことは、個性を生かす教育の方法としてとらえている。すなわち、「ある特定の児童生徒を生かす」ことではなく、集団の中で存在を確認して「それぞれの児童生徒をそれぞれに生かす」ことである。

したがって、学年・学級経営にあたっては、教師が児童生徒のあるがままを認め、それぞれをよりよい存在として学年・学級の中に位置づけ育て伸ばしていく。そして、級友のよさを認め、自己のよさを自覚して十分に発揮しながら生活・活動できるように学年・学級経営をすることが「個を生かす学年・学級経営」である。

(2) 個を生かす視点

個を生かす学年・学級経営を進めるための視点として、「個を生かす4つの視点」を設定した。

研究の視点

学年・学級経営を進める上で、認知的側面と情意的側面の調和を保ち、他者受容、自己表出を基盤にした社会性を保ち、主体的・自立的に活動できる実践力を備えた「個性豊かな児童生徒を育成」するには、次の4点に着目して指導していく必要がある。

視点1 個の存在を認め、個の存在を大切に
する内容・方法を明確にすること。

視点2 個の特性をとらえ、生かす内容・方法
を明確にすること。

視点3 認知面に偏ることなく、情意的側面
との調和を考えた実践活動の在り方を
探ること。

視点4 個性豊かな生き方のための基礎・基
本の習得を図る内容・方法を探ること。